

科目名	ベーシックレッスン 1						年度	2024	
英語科目名	Basic lesson 1						学期	前期	
学科・学年	ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース 1年次	必/選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	BAN	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン		
【科目の目的】 3種類の楽器について特徴や音色を理解し、楽曲制作に効果的に組み込むスキルを身につける。音を聞いて楽器の名称を識別でき、楽器の特性を生かしたアレンジが理解できるようになる。サウンドクリエイターとしての基礎力を養うためには、基礎レッスンや音楽全般に関する基礎知識の学習が必要なため、レベルに応じたトレーニングを実施し、各種オーディションやコンテストに向けての準備と進行方法を学び、実践する。									
【科目の概要】 サウンドクリエイターとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。レベルにあわせたトレーニングを実施し、各種オーディションやコンテストを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。									
【到達目標】 A. 3種類の楽器の特徴や音色を把握し、楽曲制作に効果的に取り入れられるようになる。 B. 音を聞いて3種類の楽器の名称がわかるようになる。 C. 3種類の楽器の特性を活かしたアレンジが理解できる。									
【授業の注意点】 この科目は開講曜日により担当教員が異なります。 専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考えから、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう			レベル1 要努力				
到達目標 A	3種類の楽器の特徴や音色を把握し、楽曲制作に効果的に取り入れられるようになる	3種類の楽器の特徴や音色を把握する			到達目標Aについてさらなる努力が必要				
到達目標 B	音を聞いて3種類の楽器の名称がわかるようになる	音を聞いて1種類の楽器の名称がわかるようになる			到達目標Bについてさらなる努力が必要				
到達目標 C	3種類の楽器の特性を活かしたアレンジが理解できる	1種類の楽器の特性を活かしたアレンジが理解できる			到達目標Cについてさらなる努力が必要				
【教科書】 授業内で使用する映像や動画。実演奏。									
【参考資料】 特になし									
【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づき、学習した楽器のまとめを14、15回目にて授業内発表を行う。 これを60%(知識のほかに感想・思考・自分の作品にどう活かせるかを発表させて評価する) 授業後に提出するレポートや、主に学習に取り組む態度を評価し平常点40%とする。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ベーシックレッスン1			年度	2024
英語表記		Basic lesson 1			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル	評価方法	自己評価
1	楽器の歴史・分類	楽器の基本知識	1 ダンス曲分析	音色の分析ができる	3	
			2 音色知識	リズムの理解が深まる		
			3 リズム入力	リズム入力ができる		
2	ヴァイオリン	楽器詳細理解	1 ダンス曲分析	コード分析ができる	3	
			2 コード進行	楽曲構築がわかる		
			3 コード入力	コード進行入力可		
3	ヴィオラ・チェロ	楽器詳細理解	1 ダンス曲分析	メロディ分析ができる	3	
			2 メロディ理解	メロディ構築能力向上		
			3 メロディ入力	メロディ入力ができる		
4	ベース・コントラバス	楽器詳細理解	1 シンセ基礎	シンセの基礎がわかる	3	
			2 シンセ活用	音色作成能力向上		
			3 作品制作	シンセを活用できる		
5	ハープ・ギター	楽器詳細理解	1 リズム知識	リズムトラック知識取得	3	
			2 リズム編集	リズムの編集ができる		
			3 ブラッシュアップ	ブラッシュアップ技法習得		
6	弦楽合奏	弦楽合奏学習	1 ミックス手法	高度ミックスができる	3	
			2 サイドチェーン	曲の書き出しができる		
			3 作品提出	正確な提出ができる		
7	高音木管	楽器詳細理解	1 授業内発表	楽曲発表の準備ができる	3	
			2 レビュー受取	発表での反応予測可		
			3 改善提案	受け取ったフィードバック処理		
8	低音木管	楽器詳細理解	1 ギターアプローチ	ギターの役割がわかる	3	
			2 ギター打込	ギター打ち込みができる		
			3 アレンジ技法	ギターをアレンジできる		
9	高音金管	楽器詳細理解	1 ベースアプローチ	ベースの役割がわかる	3	
			2 ベース打込	ベース打ち込みができる		
			3 アレンジ技法	ベースをアレンジできる		
10	低音金管	楽器詳細理解	1 スtrings理解	Strings役割理解	3	
			2 打込み技法	Strings打込み可		
			3 アレンジ技法	Stringsのアレンジ可		
11	管楽旋律学習	楽器詳細理解	1 オリジナリティ	オリジナリティ追求可	3	
			2 ビジネス観点	ビジネス観点から制作		
			3 制作方向性	方向性を持って制作可		
12	ピアノ	楽器詳細理解	1 作品制作	楽曲の方向性が決まる	3	
			2 方向性検討	制作における深化と発展		
			3 アイディア発展	方向性に基づく制作可		
13	オルガン	楽器詳細理解	1 作品制作	高度なミックス技法習得	3	
			2 方向性実装	プレゼンシート作成可		
			3 アイディア確定	楽曲の提出手順がわかる		
14	鍵盤楽器総論	総論理解	1 ミックス技法	授業内での発表スキル向上	3	
			2 書き出し技法	プレゼン内容の練習ができる		
			3 プレゼン作成	効果的なフィードバック受取		
15	まとめ	楽器総まとめ	1 作品発表	作品の改善点を知る	3	
			2 プレゼン紹介	作品をプレゼンテーションできる		
			3 レビューフィードバック	フィードバックを反映可能		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった
備考 等

科目名	ベーシックレッスン 1						年度	2024	
英語科目名	Basic lesson 1						学期	前期	
学科・学年	ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース 1年次	必/選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	大野元毅・柿崎光	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン		
【科目の目的】 現代の音楽における録音の知識を習得する。ラインでの録音手法を用いて、レコーディングが可能となり、録音したファイルの編集技術を実践することができるようにする。サウンドクリエイターとしての基礎力を築くために基礎レッスンを受け、音楽全般に関する基礎知識を学ぶ。適切なレベルのトレーニングを行い、様々なオーディションやコンテストに備え、進行方法を学び、実践する。									
【科目の概要】 サウンドクリエイターとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。レベルにあわせたトレーニングを実施し、各種オーディションやコンテストを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。									
【到達目標】 A. 現代の音楽における録音の知見を得る。 B. ラインでの録音手法で、レコーディングができる。 C. レコーディングしたファイルにおける編集技術の実践ができる。									
【授業の注意点】 この科目は開講曜日により担当教員が異なります。 専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう		レベル1 要努力					
到達目標 A	現代の音楽における録音の知見を得る	録音の知見を得る		到達目標Aについてさらなる努力が必要					
到達目標 B	ラインでの録音手法で、レコーディングができる	録音を実施できる		到達目標Bについてさらなる努力が必要					
到達目標 C	レコーディングしたファイルにおける編集技術の実践ができる	1種類の編集技術の実践ができる		到達目標Cについてさらなる努力が必要					
【教科書】 適時、講師より教材を配布する。									
【参考資料】 特になし									
【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づき、期末提出物60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ベーシックレッスン1			年度	2024
英語表記		Basic lesson 1			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル	評価方法	自己評価
1	録音の理解①	録音の概念	1 録音の概念	録音の基礎を理解	3	
			2 録音の歴史	録音の歴史を学ぶ		
			3 現代の録音	現代の録音の価値を知る		
2	録音の理解②	録音の進化	1 マイクの基礎	録音技術の変遷を学ぶ	3	
			2 マイクプリ理解	歴史的背景を知る		
			3 オーディオ理解	録音の実用性を把握		
3	音響機材①	機材知識①	1 ダイナマイク1	マイクの機能を理解	3	
			2 ダイナレコーディング	マイクプリアンプの役割を知る		
			3 マイクの実習	オーディオインターフェイスを習得		
4	音響機材②	機材知識②	1 コンデンサー1	マイクの種類を分類	3	
			2 ADDA変換	ADDA変換の重要性を知る		
			3 スピーカー特性	スピーカーの原理を学ぶ		
5	ダイナミック①	マイクの理解	1 CUBASE基礎	Cubaseの起動法を理解する	3	
			2 波形編集理解	波形編集のテクニックを学ぶ		
			3 CUBASE実践	Cubaseの設定法を理解する		
6	ダイナミック②	マイクの理解	1 波形の加工	コンデンサーマイクの活用	3	
			2 オリジナルビート	レコーディング実践を行う		
			3 ビート作成実習	コンデンの特性を理解		
7	コンデンサー①	マイクの理解	1 ピッチ編集1	CUBASE基本操作を習得	3	
			2 CUBASEミックス	波形編集のテクニックを学ぶ		
			3 vari audio理解	CUBASEの応用を知る		
8	コンデンサー②	マイクの理解	1 録音進化	波形加工の方法を習得	3	
			2 録音技法	オリジナルビートを作成		
			3 現代録音技術	ピッチ編集の基礎を学ぶ		
9	DAW基礎	CUBASE入門	1 マイク応用	ミックスの方法を知る	3	
			2 ADDA変換	vari audioの理解を深める		
			3 スピーカー理解	高度なミックス技法を習得		
10	DAW応用	CUBASE上級	1 ダイナマイク2	提出物の講評を受ける	3	
			2 ダイナ特性	前期の内容を復習		
			3 ダイナの進化	音楽制作の流れを知る		
11	ビート制作①	MIDI入力	1 コンデンサー2	マイク選択の技術を習得	3	
			2 コンデン応用	録音機材の維持方法を学ぶ		
			3 特性の違い	録音セッティングを実践		
12	ビート制作②	MIDI入力	1 CUBASE応用	音の質を高める方法を学ぶ	3	
			2 高度編集	効果的なミックスを行う		
			3 エフェクト利用	音楽のアレンジを理解		
13	ピッチ編集①	オーディオ編集	1 波形応用	プロジェクトの管理を学ぶ	3	
			2 ビート進化	CUBASEの高度な機能を習得		
			3 アレンジ技法	楽器の録音テクニックを知る		
14	ピッチ編集②	オーディオ編集	1 ピッチ編集2	ボーカルの録音を実践	3	
			2 ミックス技法	音楽ジャンルの特徴を学ぶ		
			3 ピッチ調整	ミックスダウンの方法を習得		
15	まとめ	総括&評価	1 提出物講評	マスタリングの基礎を学ぶ	3	
			2 前期の復習	楽曲提出のポイントを把握		
			3 学期のまとめ	前期の内容を総括できる		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった
備考 等

科目名	ベーシックレッスン 1						年度	2024	
英語科目名	Basic lesson 1						学期	前期	
学科・学年	ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース 1年次	必/選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	郁川舞	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン・レコーディングエンジニア ソングライター/作曲家		
【科目の目的】 実社会で得た知識を本授業で応用し、外部コンテストや依頼に基づく様々な音楽ジャンルを都度リサーチできるようになる。特定のテーマに基づくサウンドの方向性を一つの楽器に関して再現できる技術を習得し、サウンドクリエイターとしての基礎力を構築するために基礎レッスンを受け、音楽全般に関する基礎知識を学ぶ。各自のレベルに合わせてトレーニングを行い、様々なオーディションやコンテストに備え、進行方法を学び、実践する。									
【科目の概要】 サウンドクリエイターとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。レベルにあわせたトレーニングを実施し、各種オーディションやコンテストを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。									
【到達目標】 A. 実社会から得た知見を本授業内で活かしている。 B. 外部コンテストの内容または外部からの依頼に基づくうえでの1種類の音楽ジャンルを都度リサーチできる。 C. 制作するテーマに基づくサウンドの方向性を楽器1種類に関して再現できる技術を習得する。									
【授業の注意点】 この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考えから、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。教室使用後は使用した周辺の消毒清掃を各自行う。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう			レベル1 要努力				
到達目標 A	実社会から得た知見を本授業内で活かしている	実社会から得た知見を説明できる			到達目標Aについてさらなる努力が必要				
到達目標 B	外部コンテストの内容または外部からの依頼に基づくうえでの1種類の音楽ジャンルを都度リサーチできる	1種類の音楽ジャンルをリサーチできる			到達目標Bについてさらなる努力が必要				
到達目標 C	制作するテーマに基づくサウンドの方向性を楽器1種類に関して再現できる技術を習得する	制作するテーマに基づくサウンドの方向性を説明できる			到達目標Cについてさらなる努力が必要				
【教科書】 適時、講師より教材を配布する。 ヘッドホン、6.3mmステレオ標準変換アダプター、SSDやUSBメモリ等の記録媒体を持参すること。 また自身のPCを持ち込むことも可。									
【参考資料】 特になし									
【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づき、提出物課題80%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する) 平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ベーシックレッスン1			年度	2024
英語表記		Basic lesson 1			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル	評価方法	自己評価
1	PBL&デザイン思考	PBLの理解	1 デザイン思考	デザイン思考を理解	3	
			2 楽曲イメージ	楽曲イメージを調査		
			3 DAW操作基礎	DAW操作の基本習得		
2	制作基礎01	楽曲要素研究	1 楽器選別	楽器選定技術を学ぶ	3	
			2 リズムリサーチ	リズム・テンポの理解		
			3 DAW操作継続	DAW操作の基本習得		
3	制作基礎02	楽曲骨組作成	1 楽曲全体像	楽曲の全体像を研究	3	
			2 セクション考察	セクションのリサーチ能力		
			3 DAW継続学習	DAW操作の基本習得		
4	リズム構築01	リズム部反映	1 リズムパターン	リズムパートを再現	3	
			2 アレンジ実践	ドラム・ベースパターン学習		
			3 楽曲反映法	アレンジ技術を習得		
5	モチーフ作成	フレーズ検討	1 モチーフ考察	モチーフ制作の技法	3	
			2 フレーズ作成	シンプルフレーズの考案		
			3 音色検討	音色選択の理解		
6	ウワモノ配置	フレーズ検討	1 ウワモノ入力	ウワモノの入力技法	3	
			2 キー設定	コード進行の理解		
			3 コード進行	キー設定技術を学ぶ		
7	バランス調整	バランス配慮	1 楽曲継続制作	楽曲制作の継続力	3	
			2 楽器配置	全体のバランス感覚		
			3 演出考察	楽器配置の技法学習		
8	中間発表	中間発表指導	1 ラフデモ制作	ラフ音源の制作	3	
			2 音量設定	書き出し音量理解		
			3 Google提出	Google提出方法学習		
9	楽器ブラッシュアップ	楽器演奏研究	1 楽器ブラッシュ	楽器パートのブラッシュアップ	3	
			2 演奏方法模索	楽器演奏法の模索		
			3 イメージ合致	楽曲イメージと合致		
10	空間表現	エフェクト学習	1 楽器パンニング	パンニングの理解	3	
			2 エフェクト使用	空間系エフェクト使用		
			3 臨場感表現	臨場感表現の技法		
11	ミキシング基礎	エフェクト学習	1 ミキシング	ミキシング技法学習	3	
			2 リズム音量	リズム隊の音量バランス		
			3 EQ使用法	EQの理解と使用法		
12	音量バランス	音量調整指南	1 音量バランス	メインパートの調整	3	
			2 メイン調整	リズム隊との音量調整		
			3 リズム対応	ミキシング技法を深める		
13	コンプレッサー	コンプレッサー学	1 コンプレッサー	コンプレッサーの理解	3	
			2 チャンネル	チャンネルストリップ習得		
			3 ストリップ	ミキシング技法を深める		
14	作品仕上げ	最終調整技法	1 リミッター	リファレンスの比較	3	
			2 マスターエフェクト	書き出し形式の理解		
			3 ラウドネス	リミッター等の学習		
15	提出&発表	楽曲発表評価	1 楽曲提出	楽曲提出の練習	3	
			2 授業内発表	授業内でのプレゼンテーション		
			3 前期まとめ	前期の内容をまとめる		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった
備考 等

科目名	ベーシックレッスン 1						年度	2024	
英語科目名	Basic lesson 1						学期	前期	
学科・学年	ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース 1年次	必/選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	杉本 清隆	教員の実務経験	有	実務経験の職種	ミュージシャン				
【科目の目的】 映像作品やゲームに有効な作品制作技術を習得し、1種類の音楽ジャンルや国内外の名アレンジャーのサウンドスタイルに関する知識を身につける。また、オーケストレーションに必要な楽器のDAW入力方法を習得する。サウンドクリエイターとしての基礎力を築くために基礎レッスンを受け、音楽全般に関する基礎知識を学ぶ。各自のレベルに合わせてトレーニングを行い、様々なオーディションやコンテストに備え、進行方法を学び、実践する。									
【科目の概要】 サウンドクリエイターとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。レベルにあわせたトレーニングを実施し、各種オーディションやコンテストを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。									
【到達目標】 A. 映像作品やゲーム等にも有効な作品制作技術を習得する。B. 1種類の音楽ジャンル、国内外の名アレンジャーのサウンドスタイルについての知識を習得する。C. オーケストレーションに必要な1種類の楽器のDAW入力方法を習得する。									
【授業の注意点】 この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考えから、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう	レベル1 要努力						
到達目標A	映像作品やゲーム等にも有効な作品制作技術を習得する	映像作品やゲーム等にも有効な作品制作技術を説明できる	到達目標Aについてさらなる努力が必要						
到達目標B	1種類の音楽ジャンル、国内外の名アレンジャーのサウンドスタイルについての知識を習得する	1種類の音楽ジャンルについての知識を習得する	到達目標Bについてさらなる努力が必要						
到達目標C	オーケストレーションに必要な1種類の楽器のDAW入力方法を習得する	1種類の楽器のDAW入力方法を習得する	到達目標Cについてさらなる努力が必要						
【教科書】 教科書:オーケストレーション(宅美秀俊)・音楽理論ワークブック □毎回レジメ・□資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。各自、筆記用具やノートと共に持参すること。									
【参考資料】 特になし									
【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づき、提出物課題80%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ベーシックレッスン1			年度	2024
英語表記		Basic lesson 1			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル	評価方法	自己評価
1	オーケストラ学	楽器の分類	1 弦楽器種別	楽器の種類理解	3	
			2 弦楽器紹介	オーケストラの知識習得		
			3 弦楽器練習	楽器の役割理解		
2	弦楽器解説	弦楽器紹介	1 室内楽基礎	弦楽器の知識習得	3	
			2 オーケストラ研究	弦楽器の特性把握		
			3 弦楽器実技	楽器ごとの役割認識		
3	室内楽理解	演奏形態判別	1 四重奏編曲	室内楽の基礎理解	3	
			2 四重奏実技	オーケストラの違い認識		
			3 弦楽器応用	演奏の区別ができる		
4	弦楽四重奏	弦楽編曲法	1 木管楽器種	トランス技法習得	3	
			2 木管楽器紹介	弦楽四重奏の基礎		
			3 木管楽器練習	四重奏の演奏技術		
5	木管楽器学	木管の詳細	1 木管名曲学習	木管楽器の知識習得	3	
			2 木管楽器実技	楽器の特性把握		
			3 木管編曲技法	木管楽器の演奏法		
6	木管楽名曲	木管の名曲解説	1 四重奏編曲2	名曲の解析能力	3	
			2 木管実技実習	楽器の特性活用		
			3 木管楽器応用	楽曲の表現力向上		
7	木管四重奏	木管アレンジ	1 金管楽器種	木管のトランス技法	3	
			2 金管楽器紹介	四重奏の編成理解		
			3 金管楽器練習	四重奏の演奏向上		
8	金管楽器学	金管の詳細	1 金管特性学習	金管楽器の知識習得	3	
			2 金管名曲研究	楽器の特性理解		
			3 五重奏編曲	金管楽器の役割認識		
9	金管楽特性	金管特性探求	1 金管楽器実技	特性を活用する技術	3	
			2 打楽器種別	金管楽器の技法		
			3 打楽器紹介	金管楽器の表現力向上		
10	金管五重奏	金管編成技	1 打楽器練習	トランス技法習得	3	
			2 打楽器実技	金管五重奏の基礎		
			3 打楽器応用	五重奏の演奏技術		
11	打楽器解説	打楽器の概要	1 室内オーケ基礎	打楽器の知識習得	3	
			2 室内楽器練習	打楽器の特性把握		
			3 オーケストラ名曲	打楽器の演奏法向上		
12	室内オケ基礎	小オケの基盤	1 室内編曲技法	室内オーケストラ基礎	3	
			2 オーケストラ実技	編成の理解向上		
			3 室内オーケ実技	演奏の組み合わせ学習		
13	室内オケ名曲	小オケ作品研究	1 編曲実技実習	有名作品の解析	3	
			2 編曲技法研究	室内オーケストラの楽譜読解		
			3 実技レビュー	作品の背景理解		
14	オケ編成技	小オケ編曲術	1 コンサート準備	トランス技法習得	3	
			2 実際の編成	室内オーケストラ編成		
			3 最終練習	編曲の技法向上		
15	全体のまとめ	期末振り返り	1 レビュー&評価	全体の復習と確認	3	
			2 全体のまとめ	知識の統合能力		
			3 成果発表会	実践的演奏技術向上		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった
備考 等

科目名	ベーシックレッスン 1						年度	2024	
英語科目名	Basic lesson 1						学期	前期	
学科・学年	ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース 1年次	必/選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	郁川舞	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン		
【科目の目的】 3種類のKeyにおいて、コード系楽器の基礎的な奏法を磨き、楽譜の読み方を身につけながら音感やハーモニー感覚を向上させる。同時に、実践的な音楽的知識を身につける。サウンドクリエイターとしての基礎力を強化するために、基礎レッスンを受け、音楽全般に関する基礎知識を学ぶ。個々のレベルに合わせたトレーニングを行い、各種オーディションやコンテストに備え、その進行方法を学び実践する。									
【科目の概要】 サウンドクリエイターとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。レベルにあわせたトレーニングを実施し、各種オーディションやコンテストを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。									
【到達目標】 A. 3種類のKeyにおいて、コード系楽器の基礎的な奏法を身につける。 B・3種類のKeyにおいて、楽譜を読む力をつけたうえで、音感やハーモニー感覚を向上させる。 C・3種類のKeyにおいて、コードなど実践に役立つ音楽的知識を身につける。									
【授業の注意点】 専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう			レベル1 要努力				
到達目標 A	3種類のKeyにおいて、コード系楽器の基礎的な奏法を講師指定のテンポで演奏できる	3種類のKeyにおいて、コード系楽器の基礎的な奏法を任意のテンポで演奏できる			到達目標Aについてさらなる努力が必要				
到達目標 B	3種類のKeyにおいて、楽譜を読む力をつけたうえで、音感やハーモニー感覚を向上させる	3種類のKeyにおいて、楽譜を読む力が身に付く			到達目標Bについてさらなる努力が必要				
到達目標 C	3種類のKeyにおいて、コードなど実践に役立つ音楽的知識を身につける	3種類のKeyにおいて、コードなど実践に役立つ音楽的知識を説明できる			到達目標Cについてさらなる努力が必要				
【教科書】 配布プリント									
【参考資料】 特になし									
【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づき、試験50%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表30%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ベーシックレッスン1			年度	2024
英語表記		Basic lesson 1			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル	評価方法	自己評価
1	楽譜基礎	楽譜読譜入門	1 課題曲①解説	課題曲①を理解する	3	
			2 実習	実技演習ができる		
			3 楽譜基礎	楽譜の基礎が学べる		
2	旋律再現	演奏法	1 課題曲①解説	旋律の正確性向上	3	
			2 実習	楽譜を正確に読む		
			3 旋律再現	リズムを再現できる		
3	運指習得	運指技巧	1 課題曲①解説	複数の音を弾ける	3	
			2 実習	適切な運指習得		
			3 多音運指	高度な技術習得		
4	和音練習	和音演奏法	1 課題曲②解説	和音の基礎を掴む	3	
			2 実習	両手演奏に慣れる		
			3 両手演奏	総合技術向上		
5	音楽記号	音楽記号把握	1 課題曲②解説	臨時記号を読む	3	
			2 実習	調号の読解能力向上		
			3 臨時・調号	楽譜の深い理解		
6	調	概念理解	1 課題曲②解説	調の概念が分かる	3	
			2 実習	音楽の理論習得		
			3 調の概念	理論を実技に活かす		
7	中間発表	楽曲発表	1 中間発表	中間発表の経験	3	
			2 任意選曲	自選曲を披露する		
			3 実習	実技の総合力向上		
8	コード理解	演奏法	1 課題曲③解説	コード理論を知る	3	
			2 実習	コード演奏技術向上		
			3 コード知識	基礎からの応用習得		
9	コード演奏	演奏法	1 課題曲③解説	フレーズ分析の基礎	3	
			2 実習	音楽構造の理解深化		
			3 コード演奏	実技と理論の連携		
10	フレーズ分析1	分析法	1 課題曲③解説	フレーズの制作技術	3	
			2 実習	制作から発表まで		
			3 フレーズ分析1	高度な分析能力習得		
11	作曲初歩	作曲法	1 課題曲④解説	フレーズ制作の深化	3	
			2 実習	独自性の追求		
			3 フレーズ制作1	制作技術の向上		
12	フレーズ分析2	分析法	1 課題曲④解説	実技試験の対策	3	
			2 実習	試験曲の選択と練習		
			3 分析&発表	総合力での対応能力		
13	作曲応用	作曲法	1 課題曲④解説	授業内の実技試験	3	
			2 実習	講師指定課題の習得		
			3 フレーズ制作2	前期の総合復習		
14	試験対策	試験前学習	1 発表	理解を深める分析	3	
			2 実技対策	表現力の向上		
			3 曲選択	クリエイティブ思考		
15	期末試験	総仕上げ	1 実技試験	技術の精度向上	3	
			2 講師指定曲	自己評価の能力		
			3 前期まとめ	パフォーマンス力向上		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった
備考 等

科目名	ベーシックレッスン 1						年度	2024	
英語科目名	Basic lesson 1						学期	前期	
学科・学年	ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース 1年次	必/選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	西川進・永田範正	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作曲家、プロデューサー、ディレクター		
【科目の目的】 オリジナリティを追求し、各トラックの音量を適切に揃えた高品質なデモ作品を制作する。サウンドクリエイターとしての基礎力を築くために基礎レッスンを受け、音楽全般に関する基礎知識を身につける。個々のレベルに合わせたトレーニングを行い、様々なオーディションやコンテストに挑む際の準備と進行方法を学び、実践する。									
【科目の概要】 サウンドクリエイターとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。レベルにあわせたトレーニングを実施し、各種オーディションやコンテストを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。									
【到達目標】 A. 学内発表の範囲内で、オリジナリティの追求がされている。 B. 各トラックの音量を適切に揃えている品質のデモ作品が完成する。 C. 学内発表の範囲内で、作品制作に再現性が見込める。									
【授業の注意点】 専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう			レベル1 要努力				
到達目標 A	学内発表の範囲内で、オリジナリティの追求がされている	オリジナル作品を提出することができ			到達目標Aについてさらなる努力が必要				
到達目標 B	各トラックの音量を適切に揃えている品質のデモ作品が完成する	DAWで音量を揃える操作を体得してい			到達目標Bについてさらなる努力が必要				
到達目標 C	学内発表の範囲内で、作品制作に再現性が見込める	作品の譜面を書くことができる			到達目標Cについてさらなる努力が必要				
【教科書】 配布のステムデータ・MIDIデータなど									
【参考資料】 特になし									
【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づき、提出物60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ベーシックレッスン1			年度	2024
英語表記		Basic lesson 1			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル	評価方法	自己評価
1	Cubase基礎1	音色調整	1 cubase基礎①	cubaseの基本を理解する	3	
			2 音色バリエーション	音色の選択ができる		
			3 操作法習得	音色の多様性を知る		
2	Cubase基礎2	リズム学習	1 cubase基礎②	cubaseの進捗を理解する	3	
			2 リズムバリエーション	リズムパターンを作る		
			3 操作法強化	多彩なリズムを知る		
3	Cubase基礎3	コード学習	1 cubase基礎③	cubaseの高度な技術を学ぶ	3	
			2 コードバリエーション	コード変更ができる		
			3 操作法応用	コードの多様性を知る		
4	ポップス解析1	楽器解析	1 ポップス分析①	楽器の役割を理解する	3	
			2 リズム入力	リズムを作成・入力する		
			3 楽器知識	楽曲の構築技術を身につける		
5	ポップス解析2	和音入力	1 ポップス分析②	コード進行を分析する	3	
			2 コード進行入力	コードの入力ができる		
			3 和音理解	和音の使い方を学ぶ		
6	ポップス解析3	メロディ作	1 ポップス分析③	メロディの構築を学ぶ	3	
			2 メロディ入力	メロディの入力ができる		
			3 旋律構築	旋律の構築方法を知る		
7	ワンコーラス作	楽曲構築	1 ポップス分析④	曲の構成を理解する	3	
			2 ワンコーラス制作	イントロ制作ができる		
			3 イントロ制作	ワンコーラスを制作する		
8	基本ミックス	基本技法	1 ミックス基礎	ミックス技術を習得する	3	
			2 書き出し方法	曲を書き出す技術を学ぶ		
			3 作品提出	曲の提出方法を知る		
9	作品発表1	成果共有	1 作品発表	作品を発表する方法を学ぶ	3	
			2 フィードバック	フィードバックを受け取る		
			3 改善提案	発表を通じた学びを深める		
10	ループ操作	ループ活用	1 cubaseループ	ループ技術を習得する	3	
			2 素材活用	素材を適切に使用する		
			3 音楽構築	曲の構築をスムーズに行う		
11	エディット技	素材調整	1 ピッチ編集	ピッチ調整ができる	3	
			2 タイムストレッチ	タイムストレッチを理解する		
			3 素材エディット	音の編集技術を高める		
12	エフェクト応用	エフェクトの選択	1 プラグイン活用	エフェクトの活用を学ぶ	3	
			2 音色ブラッシュ	音色をブラッシュアップする		
			3 エフェクト学習	エフェクト技術を習得する		
13	時短技	時間効率化の検討	1 制作時短技	時短技術を活用する	3	
			2 構成検討	曲の構成を効率的に検討する		
			3 効率的制作	効果的な制作を行う		
14	高度ミックス	応用技法	1 高度ミックス	高度なミックスを行う	3	
			2 書き出し技術	高品質な曲を書き出す		
			3 高品質提出	楽曲の完成度を高める		
15	作品発表2	成果評価	1 発表&まとめ	発表を通じて振り返る	3	
			2 授業振り返り	授業の内容を総括する		
			3 次期展望	次のステップを計画する		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった
備考 等

科目名	ベーシックレッスン 1							年度	2024
英語科目名	Basic lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース 1年次	必/選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	河原レオ・南慶樹	教員の実務経験		有	実務経験の職種		作編曲		
【科目の目的】 特定のジャンルに合わせた作曲と編曲の技術を磨き、DAWや指定されたデジタルアプリケーションを操作し、2mixデータを提出できるスキルを身につける。サウンドクリエイターとしての基礎力を強化するために、基礎レッスンを受け、音楽全般に関する基礎知識を学ぶ。個々のレベルに合わせたトレーニングを行い、様々なオーディションやコンテストに備え、その進行方法を学び実践する。									
【科目の概要】 サウンドクリエイターとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。レベルにあわせたトレーニングを実施し、各種オーディションやコンテストを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。									
【到達目標】 A. 1種類のジャンルに合わせた作曲の技術を身につけること B. 1種類のジャンルに合わせた編曲の技術を身につけること C. DAW並びに授業指定のデジタルアプリケーションの操作方法を2mixデータが提出できる範囲で身に着けること									
【授業の注意点】 専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう			レベル1 要努力				
到達目標 A	1種類のジャンルに合わせた作曲の技術を身につける	1種類のジャンルに合わせた作曲の技術を説明できる			到達目標Aについてさらなる努力が必要				
到達目標 B	1種類のジャンルに合わせた編曲の技術を身につける	1種類のジャンルに合わせた編曲の技術を説明できる			到達目標Bについてさらなる努力が必要				
到達目標 C	DAW並びに授業指定のデジタルアプリケーションの操作方法を2mixデータが提出できる範囲で身に着ける	DAW並びに授業指定のデジタルアプリケーションの操作方法を2mixデータが提出できる範囲で説明できる			到達目標Cについてさらなる努力が必要				
【教科書】 講師オリジナル教材など									
【参考資料】 特になし									
【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づき、提出物課題60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する) 平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ベーシックレッスン1			年度	2024
英語表記		Basic lesson 1			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル	評価方法	自己評価
1	課題①入門	楽曲基礎理解	1 課題曲①紹介	課題曲①の概要理解	3	
			2 基本制作法	基本的構造把握		
			3 楽曲構造	メロディの要素認識		
2	課題①基礎	音楽構造習得	1 課題曲①分析	課題曲①の解析技法習得	3	
			2 コード進行	リズムの基礎知識		
			3 リズム感得	ハーモニーの理解深化		
3	課題①形成	旋律作成	1 課題曲①練習	楽曲のメロディ作成能力	3	
			2 メロディ作成	楽曲背景知識習得		
			3 アレンジ法	楽器役割の理解		
4	課題①解析	和声理論	1 課題曲①応用	楽曲制作の全体像把握	3	
			2 楽器選定	コード構築能力習得		
			3 ダイナミクス	アレンジメント基礎		
5	課題①応用	リズム実践	1 課題曲①発表	楽曲の完成形態理解	3	
			2 評価方法	楽曲評価基準知識		
			3 フィードバック	改善点の特定能力		
6	課題①調整	創造力活用	1 課題曲①改善	課題曲②の概要理解	3	
			2 再構築法	応用的構造把握		
			3 エフェクト利用	複雑リズムの解析能力		
7	課題①修正	アレンジ法	1 課題曲①完成	和声の拡張知識習得	3	
			2 録音技法	テクスチャー理解強化		
			3 ミックス調整	楽曲の変化・発展認識		
8	課題②入門	楽曲改良	1 課題曲②紹介	複雑メロディ作成能力	3	
			2 進行変更	ブリッジ部分構築能力		
			3 サウンド選択	アレンジの応用知識		
9	課題②基礎	楽曲分析	1 課題曲②分析	楽曲発表の準備能力	3	
			2 和声技法	楽曲の詳細な評価技法		
			3 テクスチャー	音楽制作の最終調整能力		
10	課題②形成	アレンジ法	1 課題曲②練習	リズムとメロディ統合	3	
			2 曲の展開法	楽曲のテーマ設定能力		
			3 ブリッジ作成	楽曲の変更・修正技法		
11	課題②解析	音響テクニック	1 課題曲②応用	楽曲全体の流れ理解	3	
			2 音域活用	リスニング技法習得		
			3 モチーフ展開	楽曲の構造変更能力		
12	課題②応用	レコーディング	1 課題曲②発表	楽曲の表現力向上策	3	
			2 実践的評価	音色選択の基本知識		
			3 リスニング会	楽器の演奏法理解		
13	課題②調整	音楽表現	1 課題曲②改善	曲構造の創造的変更能力	3	
			2 音色調整	アレンジの最終調整		
			3 エディット技法	MIDI編集技術習得		
14	課題②修正	作品評価	1 課題曲②完成	マスタリングの基礎	3	
			2 最終ミックス	音楽のジャンル理解		
			3 マスタリング	コードの応用技法		
15	総合復習	実用化指南	1 課題曲評価	リミックス技術習得	3	
			2 ポートフォリオ	楽曲プレゼンテーション技法		
			3 ファイナルレビュー	レビューを通じて今後への展望が把握できる		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった
備考 等